

銀漢亭日録



伊藤伊那男

9月26日(月)

▼「湯島句会」98人出句。店貸切、40数名集合。終る頃、盤水先生の甥、皆川文弘さん来店。

27日(火)

▼ひまわり館にて「銀漢萩句会」。選句に行く。店まずまずの盛況。

28日(水)

▼「運河」同人評にとりかかる。店「春耕神保町句会」後の12人。真砂年さん久々。リトアニア旅の話など。

29日(木)

▼昨日久々、酒一滴も飲まず。杉並区の健康診断で浴風会病院。発行所「十六夜句会」。今日は杉阪大和さんゲスト。

30日(金)

店の奥は有史さんの「句句会」6人。

▼「運河」同人評書き上げる。店、武田編集長、松山さん、俳人協会の「萩句会」に初参加の帰路。直、真砂年、うさぎ、眞理子、眞一、肇さんなどでカウンター賑う。発行所では「金星句会」。小島健さん「河」の集まりのあと4人。帰路、電車だいぶ乗り越し。

10月1日(土)

▼終日、原稿書きなど。夕方、吉祥寺に出て小酌。

2日(日)

▼「春耕同人句会」中野サンブラザ。来週は創刊45周年祝賀会。来賓50数名。受付でのお迎え役頼まれる。

3日(月)

▼「俳句年鑑」の執筆準備。店、企画部会議。発行所、藤田湘子についての勉強会。21時半位まで。熱心。終つて8人。皆川文弘氏より石巻の酒「日高見」届く。

4日(火)

▼「春耕」同人欄校正。「銀漢」11月号校正。第1回「銀漢賞」応募67編と！。店22時過、閉める。直前に15人入りたいたい問い合わせあつたが断つてしまふ。帰路久々ヴィノテーク。北寄貝のバスタなどでワイン。金木犀の香の中を帰る。

5日(水)

▼終日雨。発行所「ささらぎ句会」。終つて幹事する緒さんの誕生会として12人でシャンパン、ケーキなどで乾杯。へ爽かに

6日(木)

笑ふ照る日も翳る日も
▼近恵さん来店。誕生日と。たまたま居合わせた有史さんシャンパン2本あけてくれ皆で祝う。終つて、近恵、小石さんと焼肉屋にてまた乾杯。

7日(金)

▼「俳句年鑑」年代別2011年の収獲の40代を担当。26字×194行。40名程書く。今日が締切。疲れた！。「雲の峰」朝妻力一派、明日の「春耕」45周年祝賀会出席の為に上京。靖国神社吟行のあと来店。東京の連中を入れて25名。歌なども出て、「雲の峰」の活力に唸る。その他繁忙。有難し。発行所は遅くまで最終校正。

8日(土)

▼京王プラザホテルにて「春耕」創刊45周年祝賀会及び皆川盤水先生を偲ぶ会。式典のあと13時半よりコンコードボールドルームにて祝宴。来賓50余名。会員150余名と盛況。終つて「ライオン」にて二次会。そのあと大和さんと寿司屋。あとよせばいいのにうどん屋にも寄つてしまふ。食欲中枢の制御不能。

9日(日)

▼昨日は23時には帰宅している筈なのに二日酔。ああ、ちよつとやつてしまった……。年鑑原稿の再チェック。加筆。井月講演の構想。レジュメ。その他一日雑務に追われる。

10日(月)

▼11時、日暮里本行寺。第二回「ひぐらしの里俳句大会」。水内慶太、対馬康子、藤田直子さんと選者。「銀漢」から30人弱参加。終つて又一飯店にて直会。あと夕焼けだんだんのイランの店。民俗衣装着せられてベリーダンスに引き出される。水煙草。

11日(火)

▼角川通信添削教室5人。「火の会」一平、うさぎ、真砂年、詩乃、由樹子、大和、津、肖子、敦子、小石、朝比古、謙一と多数。伊勢神宮・河合さん、宮澤と来店。神宮の広報誌「瑞垣」に私の俳句と宮澤の写真のコラボ掲載の依頼受く。気仙沼の菊田島椿氏より「秋刀魚」一箱到来。半分、刺身にして「火の会」で楽しむ。

12日(水)

▼礼状その他雑務。昼、発行所「梶の葉句会」。選句に上る。店、一平さん達の「読む会」。今日は木下夕蘭と。明日土肥あき子さんの誕生日として夫君合流。終つてあき子さんがどこかでカウントダウンしよう！と。焼肉の「三幸園」にて三人で乾杯！

13日(木)

▼「銀漢」12月号の選句に入る。店閑散。ああ……。

14日(金)

▼ORIXの元部下達。当時社員だった美人のその息子が入社して、京都転勤の送別会と。ああ、時代は移つた……。でも閑散。

15日(土)

▼ふと風邪気味、これはいかんと冷蔵庫にあった風邪薬を飲む。10時、発行所にて運営委員会。武田編集長夫妻は12日より米国へ。昼、もう一度薬飲む。「本部句会」42名。選句中、眠い眠い。終つて「和民」に20人程。夜中、鼻水、咳で起きる。

16日(日)

▼8時迄寝る。今日は幸い外出の用事なし。静養日とする。ホカロン背中貼つて12月号の選句。寝たり、起きたり、生姜湯飲んだり、マッサージ機に乗ったり。酒飲まず！

17日(月)

▼12月号添削教室書く。医者にいき、抗生物質貰う。柴山つぐ子さん上京したとて寄つてくれる。治療も終り、声も出るようになり元気な様子に安心する。企画部4人。新年大会の打合せ。前の会社の安曇野在住、折井君上京したとて寄つてくれる。酒飲まず！「湯島句会」の佐古田安子さんより丹波黒豆の枝豆大量に到来。茹上げて「湯島句会」用に冷凍。

18日(火)

▼佐古田安子さんより更に丹波黒豆枝豆追加到来。今日も折井君、尾頭君も二人共、2社にわたつて私の部下に来て思ひ出話。吉田類さんのブログ掲載の件で伊勢さんが取材に来る。

19日(水)

▼星雲集秀句選評。昼寝。店、伊那北同期の三水会10人。馬肉の腸の煮込(おたぐり)、塩イカなど、郷里の食物を出

20日(木)

す。発行所「？」句会。岸本、坊城、阪西さん他。終つて店へ。
▼本井英(「夏潮」主宰)、真砂年さん。「銀漢句会」あと18人。「天為」青柳フエイさん(NY)帰国したとて有史さん、洋さん。偶然にも洋さんは本井さんの慶忌志木の生徒！

21日(金)

▼武田編集長昨日帰国。13時より店内にて11月号の発送作業。発行所では「銀漢野村句会」終つて6人店へ。皆川盤水先生の長男・丈人さんが友人と来店。奥は小野寺清人さんの「戻り鰯の会」、16人など。盛況。明日、信州行き早いで22時に閉める。「俳句」新年号から「平成俳壇」の選者を受けることになったが宅急便で大荷物届く。投稿葉書のコピーで毎月6千句以上になるという。これは大変なこと！

22日(土)

▼8時発、あずさ号、いづみ、展枝さんと茅野駅。松崎道遊さんが待つてくれて車で駒ヶ根へ。ソースカツ丼の「きらく」にて小池百人、大倉さんが合流して昼食。13時から、赤穂公民館にて駒ヶ根文芸セミナー主催、井上井月研究会。「井月の生きた時代」の題で講演。何と150名近い参加！。あと春日愚良子、城取信平、相智恵さんとシンポジウム。17時から、宮澤安治さん(幹事)経営の「水車」にて打上げ。「伊那句会」「高遠句会」のメンバーが多数集まつてくれる。終つて伊那の百人宅に10名程雪崩れ込んで二次会。同家に泊り。

23日(日)

▼8時、小池家のベランダで朝食を楽しむ。9時、小池車でいづみさん宿泊のホテルへ。すると相智恵さんがいたので一緒に行動することとし、井月の墓、塩原家敷地の井月、山頭火句碑を見る。権兵衛トンネルを抜けて木曾路の奈良井宿を散策。あと塩尻へ出て蕎麦の「しみず」にて酒宴。あずさにて夕方帰京。